

9月1日 防災の日について

9月1日は、防災の日である。各地で防災訓練が毎年この日の前後におこなわれる。しかし、本年は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、相次いで中止になっている。また、本会から毎年参加している愛知県総合防災訓練（本年は安城市にて9月5日土曜日開催予定）、なごや市民総ぐるみ防災訓練（9月6日日曜日開催予定）も中止になった。

「防災の日」は、1960年（昭和35年）に、内閣の閣議了解により制定された。9月1日の日付は、1923年（大正12年）9月1日に発生した関東大震災にちなんだものである。また、例年8月31日 - 9月1日付近は、台風の襲来が多いとされる二百十日にあたり、「災害への備えを怠らないように」との戒めも込められている。制定前年の1959年（昭和34年）9月下旬には、9月26日に上陸した伊勢湾台風が史上まれにみる被害をもたらした。

一方では、台風シーズンに制定されたことにより、台風や前線による大雨によって防災訓練が中止になる事例も発生している。「防災の日」が制定されるまでは、9月1日に行われる行事は、関東大震災犠牲者の慰霊祭が中心であった。しかし、「防災の日」が制定されてからは、全国各地で防災訓練が行われる日となっている。

今年も梅雨前線により各地で被害が出た。熊本地震の復興途中にもかかわらず九州全域の被害は甚大なものがあつた。東海地方でも、飛騨地方、JR飯田線沿線等に被害をもたらした。一方、秋雨前線やそれを刺激した台風を目を向けると過去にこの地方へ甚大な被害をもたらしている。①:伊勢湾台風が昭和34年（1959年）9月26日・②:安八豪雨が昭和51年（1976年）9月12日・③:岐阜豪雨災害が平成11年9月15日・④:東海豪雨が平成12年（2000年）9月11日・12日。

一つ一つ手短かに見ていこう。

①:伊勢湾台風は、昭和34年（1959年）9月26日に潮岬に上陸し（上陸時の気圧929mb）、紀伊半島から東海地方を中心にほぼ全国にわたって甚大な被害をもたらした台風である。伊勢湾沿岸の愛知県・三重県での被害が特に甚大であったことからこの名称が付けられた。死者・行方不明者の数は5,000人を超え、明治以降の日本における台風の災害史上最悪の惨事となった。特に名古屋市港区・飛島村・弥富市の被害が一番大きかった。この台風を記憶されている会員もいることかと思う。



②:安八豪雨は、昭和51年（1976年）9月7日より岐阜県内で降り始めた雨が、台風17号の影響を受け、9月8日～14日の降雨量は、長良川流域の大日岳1,175mm、八幡町（現郡上市）1,091mm、美濃市840mm。揖斐川流域の樽見【根尾村（現本巣市）・根尾川】951mm、大垣市824mmという記録的な豪雨となり被害をもたらした。

9月12日午前5時、墨俣町の長良川の水位は、7.14mと4回目のピークを迎えた。同日午前7時30分、安八郡安八町大森では長良川の堤防に亀裂が見つかり、直ちに補強工事が行われ、午前10時20分、作業を終える。数分後、堤防に地震のような振動が起こり、水防活動をしていた住民は不安に感じ直ちに堤防から避難した。そして、午前10時28分、安八郡安八町大森の東海道新幹線長良川橋梁下流300mの地点の長良川右岸の堤防が、約20mにわたって決壊した。水圧で決壊口は広がり、幅約80mに達した。人的被害は、死者は岐阜市での5人をはじめ岐阜県内で8人。行方不明者は1人。重傷者6人。軽傷者16人に達した。岐阜県内の床上浸水は24,209件、床下浸水は51,276件に達した。特に安八町と墨俣町の被害はひどく、床上浸水は各1,744件、1,190件。床下浸水は各366件、152件に及んだ。被害が大きかったのは、岐阜市、大垣市、美濃市、安八郡安八町、墨俣町、本巣郡穂積町、山県郡高富町、美山町、伊自良村であった。被害のあった市町村は、当時の岐阜県内の100市町村のうち、長良川、揖斐川流域、木曾川中流～下流域、飛騨地方を中心に74市町村に及んだ。

③:岐阜豪雨災害は、9.15豪雨災害として岐阜県公式ホームページに掲載されている。それによると平成11年（1999年）9月14日から15日にかけて岐阜県北部を襲った台風16号と秋雨前線の停滞による大雨が、県内各地で大きな災害をもたらした。9月15日には白鳥町内で長良川堤防が破堤し、町は県へ自衛隊派遣要請を実施、これを受けて岐阜県は災害対策本部を設置、堤防復旧と破堤拡大防止のため自衛隊が派遣された。その後も大雨は長期にわたり、9月22日には東海北陸自動車道が美濃市内で法面が崩落（高さ30、幅50メートル）するなど、県内広範囲に及ぶ災害となり、被害額は戦後2番目を記録した。④:東海豪雨は、平成12年（2000年）9月11日・12日を中心に愛知県名古屋市およびその周辺（中京地区）で起こった豪雨災害（水害）。東海集中豪雨とも言う。都市水害の恐怖を実感させる大きな被害で話題になった。なお、東海豪雨は通称であり、気象庁による命名ではない。後に激甚災害に指定された。9月7日頃から本州付近に秋雨前線が停滞しており、11日から12日にかけて、台風14号の東側を回る暖湿気流が前線に向かって流れ込んだため、前線の活動が活発となり、愛知・三重・岐阜県の東海地方を中心に、雷を伴った非常に激しい雨が降った。11日夕方ごろから、名古屋市をはじめとする中京地区を中心とした広範囲にわたり大きな被害をもたらした。2日間の積算降水量は多いところで600ミリ前後に上った。名古屋市では11日の日降水量が、平年の9月の月降水量の2倍となる428ミリとなり、2日間の合計降水量が567ミリに達した。愛知県東海市では11日の午後7時までの1時間に114mm、日降水量492mmを記録した。このため、名古屋市周辺で多数の浸水被害が生じたほか、中部地方太平洋側の広い範囲で浸水、河道護岸の損壊、崖崩れ、土石流などによる災害が発生した。この災害により、愛知県名古屋市、一宮市、春日井市、西春日井郡師勝町（現・北名古屋市）・西春町（現・北名古屋市）・清洲町（現・清須市）・西枇杷島町（現・清須市）・新川町（現・清須市）・豊山町、豊明市、半田市、刈谷市、大府市、岩倉市、東海市、知多郡美浜町・東浦町、海部郡甚目寺町（現・あま市）・大治町、北設楽郡稲武町（現・豊田市）、岐阜県恵那郡上矢作町（現・恵那市）の21市町に災害救助法が適用された。地下鉄が浸水にあたり、名鉄本線西枇杷島益が水没したりした映像がニュースになっていた。この災害を経験した会員も多数いることかと思う。



長良川決壊現場



旅館を洗う長良川の濁流

③:岐阜豪雨災害は、9.15豪雨災害として岐阜県公式ホームページに掲載されている。

それによると平成11年（1999年）9月14日から15日にかけて岐阜県北部を襲った台風16号と秋雨前線の停滞による大雨が、県内各地で大きな災害をもたらした。9月15日には白鳥町内で長良川堤防が破堤し、町は県へ自衛隊派遣要請を実施、これを受けて岐阜県は災害対策本部を設置、堤防復旧と破堤拡大防止のため自衛隊が派遣された。

その後も大雨は長期にわたり、9月22日には東海北陸自動車道が美濃市内で法面が崩落（高さ30、幅50メートル）するなど、県内広範囲に及ぶ災害となり、被害額は戦後2番目を記録した。

④:東海豪雨は、平成12年（2000年）9月11日・12日を中心に愛知県名古屋市およびその周辺（中京地区）で起こった豪雨災害（水害）。東海集中豪雨とも言う。都市水害の恐怖を実感させる大きな被害で話題になった。なお、東海豪雨は通称であり、気象庁による命名ではない。後に激甚災害に指定された。9月7日頃から本州付近に秋雨前線が停滞しており、11日から12日にかけて、台風14号の東側を回る暖湿気流が前線に向かって流れ込んだため、前線の活動が活発となり、愛知・三重・岐阜県の東海地方を中心に、雷を伴った非常に激しい雨が降った。11日夕方ごろから、名古屋市をはじめとする中京地区を中心とした広範囲にわたり大きな被害をもたらした。2日間の積算降水量は多いところで600ミリ前後に上った。

名古屋市では11日の日降水量が、平年の9月の月降水量の2倍となる428ミリとなり、2日間の合計降水量が567ミリに達した。愛知県東海市では11日の午後7時までの1時間に114mm、日降水量492mmを記録した。このため、名古屋市周辺で多数の浸水被害が生じたほか、中部地方太平洋側の広い範囲で浸水、河道護岸の損壊、崖崩れ、土石流などによる災害が発生した。この災害により、愛知県名古屋市、一宮市、春日井市、西春日井郡師勝町（現・北名古屋市）・西春町（現・北名古屋市）・清洲町（現・清須市）・西枇杷島町（現・清須市）・新川町（現・清須市）・豊山町、豊明市、半田市、刈谷市、大府市、岩倉市、東海市、知多郡美浜町・東浦町、海部郡甚目寺町（現・あま市）・大治町、北設楽郡稲武町（現・豊田市）、岐阜県恵那郡上矢作町（現・恵那市）の21市町に災害救助法が適用された。地下鉄が浸水にあたり、名鉄本線西枇杷島益が水没したりした映像がニュースになっていた。この災害を経験した会員も多数いることかと思う。



新川洗堰の出水



名鉄西枇杷島駅

これから、秋雨前線によるいわゆる秋の長雨の季節となり台風シーズンにもなる。昨年の台風19号（令和元年東日本台風）は記憶に新しいところである。10月12日に日本へ上陸し東日本（関東・甲信・東北地方）に甚大な被害を及ぼした。日整の生涯学習、その翌日の講道館での全国柔道大会も中止に追い込まれた。

災害はいつ起こるかかわからないという不安はあるが、備えあれば憂いなしという。日頃から避難場所等の確認も怠らないようにしなければならない。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い防災の非難の仕方も変化している。

（出典:ウイキペディア、bing.com、岐阜県HP、国土交通省HP、名古屋市HPより）